

令和6年度第1回奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	令和6年5月30日（木）10時から11時まで	
開催場所	奈良市役所 中央棟5階 秘書広報課 応接室（キャンベラの間）	
次第	1 開会 2 副委員長挨拶 3 議事 （1）令和5年度決算 （2）令和6年度事業計画（案）について （3）令和6年度事業予算（案）について 4 閉会	
出席者	委員	佐々木副委員長、青木委員、萩原委員、北谷委員【計4人出席】
	事務局	谷田事務局長（奈良市市民部長）、池田事務局次長（奈良市市民部次長）、森事務長（奈良市文化振興課長）、吉川、奥村、仲川、守道、桑理（事務局・文化振興課）
開催形態	公開（傍聴人なし）	
決定事項	●全議案について 承認された。	
担当課	奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（市民部文化振興課）	

議事の内容

1 開会

2 副委員長挨拶

（事務局より会則改正説明）

- ・副委員長佐々木雅幸氏が金沢星稜大学特任教授から大阪公立大学客員教授に就任。萩原雅也氏が大阪樟蔭女子大学から名誉教授の称号を授与された。所属、役職を変更して本日付けで会則を改正する。

3 議事

（1）第1号議案 令和5年度決算報告について

（事務局より説明）

- ・予算10,200千円のところ支出は9,927千円。差額272,520円については奈良市へ返納。会計処理について、4月19日に監事の青木幸子氏による監査を実施。適正処理を確認。

⇒承認。

（2）第2号議案 令和6年度事業計画（案）について

（3）第3号議案 令和6年度事業予算（案）について

（事務局より説明）

令和6年度事業計画（案）

- ・第2号議案令和6年度事業計画について、令和6年3月22日開催の、令和5年度第2回奈良市アートプロジェクト実行委員会において意見のあった事業計画（案）についてさらに内容を精査した。

- ・令和3年度より「演劇」と「美術」を交互にメインとなるプロジェクトを実施しており本年度は「美術」。

【美術部門】

- ・令和6年度夏にリニューアルオープンするならまちセンターを拠点に、市民とともにつくる、ならまちワンダリング「古都祝奈良文化祭」、若いアーティストやプレイヤーを育成する「古都祝奈良の学校」、東アジア文化都市10周年の機運を高める「古都祝奈良シンポジウム」の3つのプログラムを開催。
- ・昨年度3月の実行委員会で美術部門プログラムディレクターとしていた小山田徹氏が体調不良のため、秋田公立美術大学教授、藤浩志氏に美術部門プログラムディレクターの就任を依頼。

【演劇部門】

- ・昨年度に引き続き演劇部門プログラムディレクターを芸術文化観光専門職大学助教 田上豊氏に依頼。
- ・「青少年と創る演劇」はLiteとしてリーディング劇を稽古、上演する。参加費や観覧料の徴収も検討。
- ・劇団員が劇場を飛び出し市内各所で公演を行う「まちなか舞台」を開催。市内で活動するグループを中心に、演劇ユニットなど5組以上を選定、11月公演予定。

(事務局より説明)

令和6年度事業予算(案)

- ・収入は、市負担金収入が10,200千円、プログラム参加者参加費・観覧料が30千円 合計10,230千円。支出は事業費として美術経費5,400千円、シンポジウム経費1,000千円、演劇経費2,010千円、広報事業1,437千円、事務管理費383千円 合計10,230千円を計画。

⇒第2号議案、第3号議案 承認。

(委員からの意見)

- ・令和3年度から美術と演劇を交互にメインとしてやってきたが、10周年の2026年は両方メインとする方向性であれば、今年度あたりから融合させた取り組みをしていけばスムーズに連携するのではないかな。
- ・市民に浸透して沢山の方が参加出来ると良い。計画段階からそういう形を作っていければと思う。
- ・計画的に年度ごとにテーマを設けて行うことが必要。かつて沖縄県のうるま市で中高生が伝統文化を伝える演劇を見て、こういう活動が奈良市でも起こればと思っていたが今形になっている。もっと広く知らしめる活動になってほしいと思う。
- ・2016年からこれまでの大きな変化はコロナ。芸術文化は大きなダメージを受けた。過日開催の日中韓首脳会談で来年から2年間を文化交流年にしたいというメッセージがあったが、10周年には(奈良市のパートナー都市の)中国・寧波市、韓国・済州自治道にも参加いただくようなメモリアルな企画が出来れば良いと思う。
- ・インバウンドに向けてどう打ち出すかも大事。奈良は古都としてネームバリューがあるが、新しい奈良のイメージに取り組むことは、アートプロジェクトと都市文化戦略との両方であり、奈良市の全体構想となる。伝統的な文化財だけでなく、新しい奈良のアート創造拠点がどこであるかがはっきりとあると良いと思う。
- ・次の奈良のアート参加者やアーティストにもなるであろう子どもたちに焦点を当てることは、大規模であれ小規模であれ必要なこと。「青少年と創る演劇」もいきいきと参加した人たちの視点をどう都市の魅力発信につなげていくのが大事。
- ・行政がデジタル化して用事はオンラインで済まし、逆に市役所がアートセンターになって人が集うイベントをやっているというのも面白い。昨年岡山市がユネスコ創造都市ネットワークの文学分野の加盟都市となった。文化で国際交流をすることが必要と思う。

4 閉会